

保健婦メモ

献血

献血はあなた自身の健康管理にもお役にたちます。

町では、保健センターなどで毎年数回献血をおこなっていますが、皆さんは献血をしたことがありませんか。

交通事故、外科手術などに併せて、近年、心臓・肝臓の手術や内科治療に多量の血液需要が増加しています。

千葉県では、血液の需要量が一日九〇〇人以上の献血が必量で、年間では、三十万人以上の献血が必要とされています。

光町では、年間約四八〇人の方々が、献血に協力されています。

ところで、献血をしますと、献血者へのサービスと輸血用血液の品質確保のために、血液型や肝機能検査などの血液検査を実施しているのを、ご存じですか。

別表の検査項目を実施していただきます。また、献血をする前に、血圧測定や、比重を測定しますので貧血のめやすにもなります。健康ですと、特に若い方など

血圧測定や血液検査をするチャンスもあまりないと思います。ぜひ献血を自分の健康管理にも役だててほしいものです。

2月は県献血推進強調月間です

輸血用血液を確保するため、皆様のご協力をお願いします。

日時 2月26日 9:30~12:00・13:00~15:30

場所 保健センター

検査項目	正常値	検査説明
S-GPT (血清トランスアミナーゼ)	3~35 単位	肝臓に多く含まれ、その他の臓器にもある程度含まれる酵素です。これらの臓器が悪くなると、細胞からこの酵素が出ていくため、血液中の量がふえることがあります。 (検査法 Reitman-Frankel 表中の単位 Karmen)
ALP (アルカリフォスファターゼ)	女性及び20才以上の男性3.0~15.0 単位19才以下の男性3.0~25.0単位	腸・腎臓・脾臓などに分布している酵素で、特に骨が新生されるところでは、その量が増し、妊娠の時にも多くなります。また、この酵素は肝臓から胆汁の中に排出されますので、肝臓や胆道が悪くなったときも血液中の量がふえることがあります。 (検査法 Kind-King 表中の単位 King-Armstrong)
TP (総蛋白) ALB (アルブミン) A/G (アルブミン対グロブリン比)	6.3~8.8 g/dl 3.5~4.6 g/dl 0.8~1.8	健康な人の血清蛋白量は、ほぼ一定ですが、病気などで栄養が悪くなると少なくなります。また血清蛋白は大きくアルブミン(A)とグロブリン(G)とに分けられ、その割合(比)は健康な人ではある範囲に保たれていますが病気によってはその割合が違ってきます。 (検査法 TP-Biuret ALB-BCG)
BUN (尿素窒素)	5~23 mg/dl	蛋白質は、栄養素としてからだのなかで利用されたあと、尿素になって腎臓から尿中に排出されます。そこで腎臓の働きが悪いと尿素(尿素窒素)が血液中にふえますし、またからだのなかで蛋白質が多くこわれるようなときにもその量がふえます。 (検査法 Urease-Indophenol)
CHOL (コレステロール)	100~250 mg/dl	血液脂肪のなかの一つで、脂肪の多い食事を長時間、続けている人や、肝臓、腎臓・脾臓・胆道などの病気の時などにも、血液中のコレステロールの量がふえることがあります。また血液中のコレステロールが多くなると、血管に変化がおこり、これが原因の一つとなって、血管系に関連した病気もおこることもあります。 (検査法 Enzyme-Assay)

(これらの検査サービス通知は、郵便でご本人に送付されます。)

◇ 献血できる人 ◇

- ・ 満16才以上満64才迄の人
- ・ 体重男子45kg、女子40kgを超える人
- ・ 血液比重が1.052以上の人

◇ 献血できない人 ◇

- ・ 妊娠している人、または過去6ヶ月以内に妊娠していた人
- ・ 産後6ヶ月以内の人
- ・ 医師が採血できないと診断した人